

所
議
会
高
校

スペインとの関係学ぶ 遣欧使節団の子孫と交流

富士宮高校会議所は、このほど、先祖ゆかりの土地を走る「東北クロッシングⅡ」で来日したスペインの人たちとの交流会を西町レトロ館で行った。

スペインのコリア・デル・リオ市には、約400年前に仙台藩主の伊達政宗がヨーロッパに派遣した「慶長遣欧使節団」の子孫として、日本を意味するハポンの名字を持つ人が多く、そうした人たちの交流の懸け橋となる

ハボン・ハセクラ協会が「東北クロッシング」を企画。ルーツのある日本を走ることで文化を知り、住民との交流を深めるのが目的。平成27年に東日本大震災の被災地復興を願って実施して以来の2回目となり、今回は富士山麓から東北までの各地を巡っている。

富士山麓では田子の浦をスタート。実相寺から岩本山の茶畑を抜けて浅間大社を参拝し、山宮浅間神社を経て村



「東北クロッシングⅡ」の参加者と懇談(提供写真)

山浅間神社までの33キロを走った。
同会議所の交流会では、会頭の渡井美結さ

んと清彩華さんをはじめ高校生8人が集まり、カルロス・ハボンさんとエドアルド・フェル

ナンデスさん、サポートする市内の渡邊美さんらを迎えた。互いの取り組みを交えて懇談

し、ハボンさんらは高校生の質問に対し、「長距離を走る上で、日本では特にご飯をよく食べる」「日本の文化では漢字が好き」などと答えたほか、「留学や観光などでスペインに来てほしい」と期待した。

締めくくりに清さんは「日本とスペインのつながりを深く考えるきっかけになった」と語り、同会議所が制作した絵はがきセット、ニジマスの振り掛けと茶漬け、各種富士山グッズなどを贈呈。「祖国に帰って、これらを見たり、試食したりして富士宮を思い出してほしい」と呼び掛けた。